

I 第35週の発生動向 (2009/8/24~2009/8/30)

- インフルエンザについて、迅速診断キットによる各保健所管内の内訳は、東地方+青森市 (A:6人)、弘前 (A:7人)、八戸 (A:11人)、五所川原 (A:3人)、上十三 (A:8人,B:2人,不明:1人)、むつ (A:1人) でした。
(Ⅱ表(85)インフルエンザには、PCR検査による確定患者は含まれません。)
- 手足口病については、青森市及びむつ保健所管内において、前週に引き続き**警報**が、弘前保健所管内では、新たに**警報**が発令されました。

Ⅱ 第35週五類感染症定点把握 注：五類感染症定点把握疾病の警報・注意報については、二次保健医療圏単位で判定しています。

疾患名	東地方+青森市		弘前		八戸		五所川原		上十三		むつ		青森県計		増減数	東地方(再掲) 青森市(再掲)				定点数			
	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点	数	定点		数	定点	数	定点	数	定点	数	定点
小児科 内科 (85) インフルエンザ	6	0.4	7	0.5	11	0.8	3	0.4	11	1.2	1	0.2	39	0.6	-27			6	0.5				
小児科 (74) RSウイルス感染症			1	0.1	3	0.3			1	0.2			5	0.1	3								
(75) 咽頭結膜熱	1	0.1	1	0.1	1	0.1			1	0.2			4	0.1	0	1	1.0						
(76) A群溶血性レンカ球菌咽頭炎	10	1.1	5	0.6	1	0.1			9	1.5	3	0.8	28	0.7	-7			10	1.3				
(77) 感染性胃腸炎	25	2.8	7	0.8	7	0.8	3	0.6	18	3.0	10	2.5	70	1.7	3	6	6.0	19	2.4				
(78) 水痘	3	0.3	4	0.4	3	0.3	3	0.6	1	0.2	1	0.3	15	0.4	-18			3	0.4				
(79) 手足口病	62	6.9	54	6.0			20	4.0	8	1.3	22	5.5	166	4.0	4	19	19.0	43	5.4				
(80) 伝染性紅斑	1	0.1					1	0.2			1	0.3	3	0.1	-2			1	0.1				
(81) 突発性発しん	8	0.9	4	0.4	3	0.3	4	0.8	4	0.7	4	1.0	27	0.6	0	4	4.0	4	0.5				
(82) 百日咳															0								
(83) ヘルパンギーナ	9	1.0	15	1.7	3	0.3	3	0.6	2	0.3			32	0.8	-6	6	6.0	3	0.4				
(84) 流行性耳下腺炎	5	0.6	6	0.7	2	0.2					1	0.3	14	0.3	2			5	0.6				
眼科 (86) 急性出血性結膜炎															0								
(87) 流行性角結膜炎	2	1.0					2	2.0					4	0.4	1			2	1.0				
基幹 (95) マイコプラズマ肺炎			2	2.0	3	3.0					1	1.0	6	1.0	0								

は警報、は注意報。「空欄」：患者発生無し。

Ⅲ 表Ⅱ以外の感染症法対象疾患 (注：届出数は速報値です)

- (9) 結核(二類全数把握疾患)：弘前1人、五所川原3人、上十三1人 (21年計:240人)
- (14) 腸管出血性大腸菌感染症(三類全数把握疾患)：弘前1人、むつ1人 (21年計:21人)

Ⅳ 第35週の新型インフルエンザ(A/H1N1)情報 ()内は累計 数値は速報値です

	東地方	弘前	八戸	五所川原	上十三	むつ	青森市
確定患者	-	2(14)	1(10)	3(7)	0(12)	0(3)	1(14)
疑似症患者	0(1)	4(73)	5(26)	3(8)	1(49)	0(13)	0(43)

・確定患者及び疑似症患者については、入院症例、及び同一施設等における集団発生事例として把握された患者を計上しています。
過去的全数把握疾患については、月報をご覧ください。

感染症の惑

RSウイルス感染症

(respiratory syncytial virus: RSV)

(人/定点)

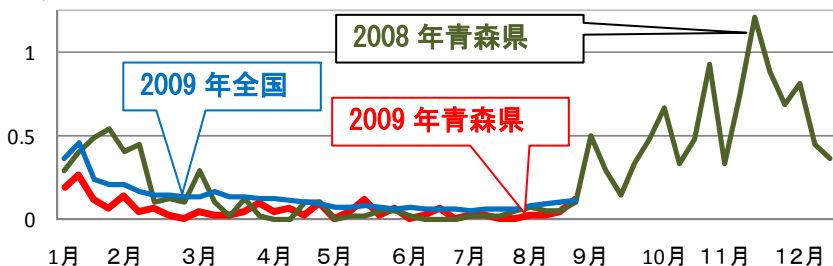


図1 全国および青森県における届出数年次推移

表1 保健所管内別累計(2009年1-35週)

	(人)	(人/定点)
青森市+東地方	15	1.67
弘前	37	4.11
八戸	8	0.89
五所川原	8	1.6
上十三	16	2.67
むつ	1	0.25

本疾患は、乳幼児に多く、気管支炎や肺炎を引き起こす感染症です。現在は、少ない届出数で推移していますが、冬季に増加する傾向があることから、今後の動向に注意が必要です(図1)。保健所管内別では弘前管内が最も多い届出数となっています。